

## 老人医療センター・老人総合研究所における 病理解剖症例を用いた研究について

老人医療センターと老人総合研究所では長い間、病理解剖症例を用いて、老化、老年病（老人によくみられる病気）に関する共同研究をおこなってきました。現在、二つの長期の研究がおこなわれています。

### 1. 遺伝子多型研究

老人はアルツハイマー病、パーキンソン病、骨粗鬆症、変形性骨関節症、慢性閉塞性肺疾患、前立腺肥大症、白内障、緑内障といった老人にだけみられる病気や、高血圧、糖尿病、高脂血症、虚血性心疾患、脳血管障害といった生活習慣病、ガンにかかる事がよくあります。これらの病気の多くはタバコや遺伝子多型（人の遺伝子がそれぞれ少しずつ違うこと）



老年病 SNP データベース

などの原因が複雑にからんでおくとされています。老人医療センターでは老人総合研究所、東京医科歯科大学、東京大学と協力して老年病の遺伝子多型の共同研究をおこなっています。共同研究の内容は「老年病 SNP データベース」として、インターネット上で公開されています。データベースでは名前や、個人を決められないような形で病気や遺伝子多型の関係を見ることができるようになっています。

アドレス：<http://www.tmgh.metro.tokyo.jp/jg-snp/japanese/top.html>

### 2. 高齢者ブレインバンク

老人はアルツハイマー病、パーキンソン病やいろいろな原因不明の神経の病気にかかります。老人医療センターでは老人総合研究所と協力して老人の神経の病気、特に脳の老化や認知症（痴呆）を研究するために「高齢者ブレインバンク」をつくりました。現在、病理解剖の時にとられた脳を高齢者ブレインバンクに登録し、日本や外国の多くの研究者と共同研究をおこなっています。

なお、以上の2つの共同研究は老人医療センター・老人総合研究所の倫理委員会で認められています。